

新着本紹介

●一般書 ○児童書



- 夜の恩寵／三浦 しをん(著)／集英社
- ケニアの道端にライオンはいない。住んで初めてわかったアフリカの話／さとこ 国立公園(著)／KADOKAWA
- 13歳から知っておきたい世界の常識・非常識／谷本 真由美(著)／扶桑社



- 死神(落語絵本)／川端 誠(作)／ロクリン社
- ケチャップマン 2 せんべいやのマヨネエ／鈴木 のりたけ(作)／ブロンズ新社
- きけん！ねっちゅうしょうにちゅうい／森戸 やすみ(監修)／汐文社

雑誌リサイクルデー

図書館 1 階エントランスにて、保存期間が過ぎた雑誌を差し上げます。

雑誌がなくなり次第終了します！

日時 10月15日(木) 午前9時30分～

イベント

令和 8 年度ふれあい図書館まつり 平和な未来を考えよう ～紙芝居を通して～

日時 11月23日(月・祝)

午前10時受付

場所 松井エイコ氏

場所 市民会館 第 1 会議室



これにあわせて、皆さんから「平和へのメッセージ」を募集しています。

図書館 1 階・2 階に設置しているコーナーに、メッセージカードをご用意しています。

皆さんの平和への願いや、大切にしたい思いをお書きいただき、図書館 1 階エントランスに設置したツリーに飾ってください。

皆さんからのお寄せいただいたメッセージは、ふれあい図書館まつり当日にも展示させていただきます。たくさんのご参加をお待ちしております。



市立図書館 ☎ 7 2 - 9 2 5 4

ホームページ

<https://www.city.makurazaki.lg.jp/site/library/>

★開館時間 9:30～18:00

カレンダー 10月10日～11月7日

日	月	火	水	木	金	土
						10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7

休館日 ☆ イベント

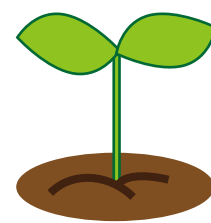
○おはなしのへや 午後3時～
(絵本と紙芝居の読み聞かせ)

音訳ボランティア
「ひだまり」について

●活動内容 毎月、「広報まくらざき」をCDに音訳し、視覚障害の方へお届けしています。

●今月の担当 竹原さん、西村さん

●会員募集中 問い合わせは図書館まで。



みんなで育てよう 男女共同参画の芽

Gender equality

このコーナーでは、男女共同参画社会の推進に向けて、男女共同参画に関するさまざまな情報を隔月で発信していきます。

今月は、「性に関する多様な個性と、身体的性差に応じた健康支援」についてです。

○誰もが自分らしく、健やかに生きられる社会へ

人には多様な生き方や個性があり、「性」についても単純に「男」「女」の2つだけで割り切れるものではありません。

国では2026年6月に「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」に基づく基本計画が閣議決定され、SOGI(性的指向・ジェンダーアイデンティティ)の多様性に関する国民一人一人の理解を深めることで、性的マイノリティもマジョリティも安心して生き生きと人生を送ることができる共生社会の実現を目指すこととしています。

○身体的性差に応じた健康支援

多様性を尊重する上で、一人一人の「身体の仕組みの違い(生物学的性差)」を知ることも重要です。男女特有の健康リスクに寄り添う社会の動きとして、2026年2月から一部の薬局で処方箋なしでのアフターピル(緊急避妊薬)の対面販売が開始されました。女性の負担を軽減する選択肢ですが、購入には「本人の来局」「薬剤師の目の前で服用」など厳格な条件があります。

○市役所や保育園等を対象とした研修会

市では、7月の鹿児島県男女共同参画週間に市職員、議員、男女共同参画審議会委員、保育士等を対象として男女共同参画研修会を実施しました。参加者は、LGBTQ+など性の多様性や、家庭・職場・枕崎市における無意識の思い込みについて、講話やワークショップを通して学ぶことができました。



内閣府HP「性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進」基本計画



防災掲示板

地震への備えを 始めましょう

地震はいつどこで発生してもおかしくありません。揺れは突然やってくるため、家具の固定や寝室の安全確保など、日頃の備えが命を守ります。沿岸部では津波が想定されますので、揺れを感じたら、まず身を守り、津波注意報や警報が出たら、すぐに海岸から離れる行動が必要です。避難ルートは昼と夜で見え方が異なるため、時間帯を変えて確認しておく安心です。地震は何の前触れもなく発生します。備えは「今日」から始めましょう。

問合せ 総務課危機管理対策係 TEL76-1086

環境・ごみ減量・動物愛護などに

関する情報を発信するコーナー

です。

今月のテーマ

10月は3 R推進月間

および食品ロス削減月間です。



3 Rは限りある資源やエネルギーを有効活用し、環境への負荷を軽減する「循環型社会」実現のためのキーワードです。Reduce(リデュース：ごみの発生抑制)、Reuse(リユース：ものの再使用)、Recycle(リサイクル：もう一度資源として活用したり、不要になったものを他のものに転用して使ったりすること)を心がけましょう。

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられている食品のことです。日本では令和6年度推計値で年間461万トン(令和5年度464万トン)の食品ロスが発生しています。食品ロスを削減するために、食材は残さず使い切る、料理は残さず食べ切るようにしましょう。



問合せ 市民生活課環境整備係 TEL76-1097

カラダ と こころ

健康づくり、生活習慣病
予防、介護予防等に関する
情報をお知らせします。

子宮頸がんを予防するために
今できること
HPVワクチン接種

○子宮頸がんとは？

日本では毎年、約1万人の女性が子宮頸がんになり、さらに毎年約3000人の女性がなくなっています。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう人も、1年間に約9000人います。子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因と考えられています。このウイルスは、女性の多くが「一生に一度は感染する」といわれているウイルスです。感染するとほとんどの人は時間がたつと検査では見つからなくなりますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。現在、

感染した後にはどのような人ががんになるのかわかっていないため、感染を防ぐことががんにならないための手段です。

○子宮頸がんを予防するために
今できること

日本では、小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に、子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐワクチンの定期接種を公費で行っています。HPVの感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できると期待されています。カナダ、オーストラリアなどでは女の子の8割以上がワクチンを受けています。HPVワクチンを受けることを希望する場合は接種する年齢によって、接種の回数や間隔が少し異なりますが、半年～1年の間に決められた回数、接種します。接種には、保護者の同意が必要です。

将来の子宮頸がんを予防するために今できることとしてHPVワクチン接種をお勧めします。

■問合せ 健康センター TEL 72-17176